生命（いのち）のにぎわい調査団

生命（いのち）のにぎわい通信

第　２０　号：発行　平成２４年（２０１２年）１月

発行：千葉県環境生活部自然保護課
生物多様性戦略推進室
生物多様性センター
〒260-8682　千葉市中央区青葉町955-2
（千葉県立中央博物館内）
TEL 043-265-3601　FAX 043-265-3615
URL http://www.bdcchiba.jp/monitor/
E-mail　monitor@bdcchiba.jp

平成２４年・２０１２年は「辰年」です！！

「辰（タツ）/竜（リュウ）/龍」に名が因む生きものを集めてみました。

十二支の中で唯一の空想上の生きものが辰タツ（竜／龍）です。タツ、リュウの名前を持つ生きものを集めてみました。有名なのは海水魚のタツノオトシゴ（竜の落とし子・ヨウジウオ科）、そして、サンショウウオ（火竜・有尾の両生類）、植物では、リュウノヒゲ（竜の髭・イネ科）、リュウノヒゲモ（竜の髭藻・ヒルムシロ科）、リュウノウギク（竜脳菊・キク科）、リュウガン（竜眼・ムクロジ科）、リンドウ（竜胆・リンドウ科）など多くのものがあります。他にも、アロワナ（銀龍魚・アロワナ科）やイセエビの仲間（龍蝦）、哺乳類ではモグラ（土竜・モグラ科）、爬虫類ではコモドドラゴン（オオトカゲ科）などがあります。そして、恐竜！中生代ジュラ紀の大型肉食恐竜「アロサウルス」が県立中央博物館のホールに登場です。アメリカ・ユタ州で発掘され、国立科学博物館所蔵「恐竜アロサウルス」の全身骨格が平成２４年４月８日（日）まで、展示されています。この機会にぜひ竜を見に来てください。

コケリンドウ（リンドウ科）
リンドウ（竜胆）は、生薬（健胃作用）・干した根が熊の胆より苦く「まるで竜の胆」による。リンドウは、かつて里山の草地に自生していたが、草刈り等の手入れが放棄され自生地が減少している。（写真：BDC）

ギンリョウソウ（イチヤクソウ科）
ギンリョウソウ（銀竜草）は、全体の姿が銀色に輝く竜に見えるためといわれる。葉緑素を持たず光合成をしないかわりに、菌類と共生して栄養を得ている。薄暗い林の中で白く浮かび上がる姿から幽霊茸と呼ばれることもある。　（写真：BDC）

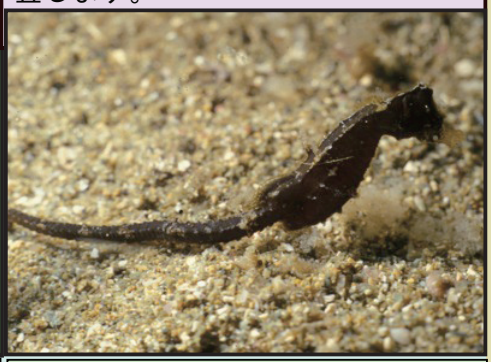
『調査フォーラム』の開催
平成２４年３月３日（土）午後１時～４時、県立中央博物館講堂
絶滅のおそれのある生きもの、調査報告のまとめについて、説明します。

事例紹介者を募集：調査団員が各自で行なっている観察・研究等の活動やブログ等について事例紹介してくださる団員を募集しています。

『写真コンテスト』の作品募集
調査団員限定の写真コンテストへの作品を募集します。
１名が２作品まで応募できます。
平成２４年２月１０日（金）まで
フォーラム当日に参加者の投票で審査します。

トウキョウサンショウウオ
（サンショウウオ科）
（Tokyo salamander）
サラマンダー＝ギリシャ語で火竜（火トカゲ）。トウキョウサンショウウオ（山椒魚）は、生息環境の悪化やアライグマの食害などにより、生息数が激減している。（写真：a0466）

オニヤンマ（オニヤンマ科）
（Golden-ringed dragonfly）
ドラゴンフライはヤンマ等大きなトンボの英語名である。本種は、日本最大のトンボでヒグラシ等の小さいセミまで補食する。林縁部の細い水路などに沿って飛翔する。（写真：a0536）



タツノイトコ（ヨウジウオ科）
タツノイトコ（竜の従兄弟）の仲間は、海藻などに尾を巻き付けて、小さなプランクトンを管状の口で吸い込んで食べる。オスの腹部にある袋の中へメスが産卵し、ふ化した稚魚はこの袋から出るため、オスが出産するように見える。（写真：BDC）

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報　は、調査団のホームページをご覧ください
「調査団」http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html と「生物多様性センター」http://www.bdcchiba.jp/

生命のにぎわい調査団研修会で清澄山系のモミ・ツガ天然林を観察

調査団の23年度２回目の現地研修会を、１２月１０日（土）に、国連の定めた国際森林年２０１１年に因み、「東京大学千葉演習林」で実施しました。テーマは「清澄山系に残されたモミ・ツガ針葉樹天然林と広葉樹天然林、高齢スギ人工林を見て、その林間に生息する生きものを観察する」とし、参加者は４３名でした。

はじめに、演習林清澄作業所の森林博物資料館において、演習林職員の方から、演習林2,200haの現況と植生などの説明を受けてから、演習林をぬける郷台林道を荒樫（あらかし）まで往復し、県内でこの地域だけでしか見られない『モミ・ツガ針葉樹天然林』や、その下層木のシイ・カシ類などを観察しました。団員は、樹齢１５０年を超えるスギ人工林に感動し、イノシシが掘り起こした跡やニホンジカの食痕を確認し、植物では、赤い実のフユイチゴを食べたり、リンドウの花を観察しました。演習林では、研究・教育、野生動植物の保全、森林の管理、環境保全が行われており、多くの地域固有種、希少種が生育しています。また、演習林の中では、千葉県の絶滅危惧種である最終氷期後の遺存種、山地性針葉樹ヒメコマツを保全しています。参加者からは、清澄山の森林の成り立ち、植物と動物の関わり、野生動物と人の関わりを知ることができたとの声が寄せられました。

〇森林博物資料館では、東京大学千葉演習林の現況、植生や動物、そして、森と人との関わりについて熱心に学びました。
〇郷台林道では、ぬかるみに残る動物の足跡や糞（イノシシ、タヌキ、キョン、ニホンジカ）を観察し、山並みの遠くには、白く雪を冠った富士山が見えました。
〇樹齢１５０年の杉林が持つ雰囲気に圧倒されました。

世界的な希少種「クロツラヘラサギ」「ソデグロヅル」が飛来しました！

クロツラヘラサギは、IUCN（国際自然保護連合）のレッドリストで「EN（絶滅危惧1B類）」に指定され、また、環境省では「CR（絶滅危惧1A類）」に、千葉県では「A（最重要保護生物）」に指定されています。

本種は、九州や沖縄で少数が越冬し、千葉県では行徳保護区や利根川河口域などで記録があります。日本への渡来数はやや増加傾向にありますが、全体の生息数は急激に減少しています。

お願い：田畑は農家の仕事場です。観察の際は、田畑などへは無断で立ち入らないでください。観察時には、観察マナーを守り、生きものや自然や周囲への配慮を忘れずに。

ソデグロヅルは、IUCN（国際自然保護連合）のレッドリストで「CR（絶滅危惧1A類）」に指定されています。環境省や千葉県のレッドデータには未記載です。日本国内では殆ど観察されず、定期的な越冬が無いためです。最近は印西市のハクチョウ飛来地をねぐらとして利用しています。

（写真は共にa0512）

『外来種シンポジウム』

平成２４年２月４日（土）午後１時～４時、県立中央博物館　講堂、

外来生物は、その地域独自の生態系を脅かす原因であり、アライグマなどペット由来の外来生物も多く、身近で大切な問題です。多摩川のおさかなポストの山崎充哲氏の講演と、外来種防除を行なっている団体に事例紹介してもらいます。

『季節報告』

平成２３年のイロハカエデ紅葉とイチョウ黄葉は、夏の猛暑と、１２月初めまで最高気温が20度近い日があった温かく長い秋や、９月の台風１５号の風害塩害等の影響で、紅葉日判定が大変難しい状況でした。

ヒガンバナの開花は９月１７日から始まり、ビワの開花は、１１月２日から散発的に始まった。その後１１月下旬からは報告が続きました。

＜1～3月に観察できる生物と季節報告＞調査対象種以外の生きものの報告を受け付けています（写真を添付）

ウメ（開花）、オオバン、ミヤコドリ、ウグイス（初鳴き）、　ミノムシ、

両生類の産卵：トウキョウサンショウウオ（2～3月）、ニホンアカガエル（1～2月）、アズマヒキガエル（2～3月）